

# 風車への「乱流」調査

## 東芝 九大 長島町に発電施設増設

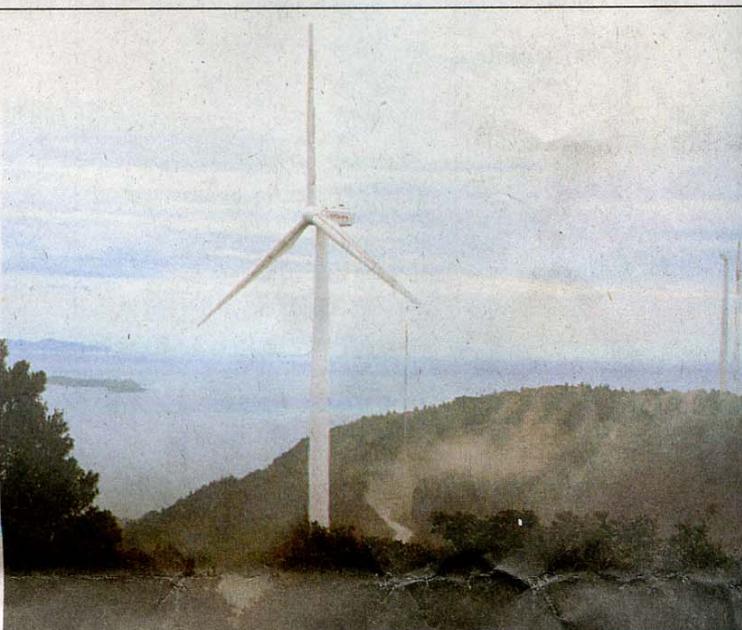
東芝の完全子会社「シグマパワーージャネックス」（福岡市）が運営する風力発電施設が、長島町山門野に2基増設され13日、現地で完成式があった。東芝は、複雑な地形などで起こる風の流れ「乱流」が風車に与える影響を九州大学と共同で調査し、風車の性能向

上に生かす。

2基（出力各2千キロワット）は国内初の東芝製で、3月31日に運転を始めた。九大などによると、稼働中の風力発電施設を使った大規模調査は珍しいという。風力発電は、乱流によって発電量が想定通り確保できなかったり、金属疲労による故

障原因になったりするのが、課題の一つとされている。東芝は、風の変動を試算する風況診断ソフトを開発した九大の内田孝紀准教授（風工学）と協力し、2基に計300種類の計測機を設置。風の吹き方や風車への荷重、振動などを数年間かけて調査する。

東芝の調査担当者、谷山賀浩さん（43）は「調査を基に、設置場所に適した風車の設計、開発につなげたい」。内田准教授は「実測値を使いソフトの精度を向上させれば、施設の適地がより正確に



東芝と九州大学が風況調査をしている風力発電施設 =13日、長島町山門野

分かり、故障も起こりにくくなる。風力発電の普及促進にもつなげたい」と期待を寄せた。（桐原史朗）